

厳しい寒さも和らぎ、柔らかな春の訪れを感じる今日の佳き日に、私達 41 名は卒業の日を迎えることができました。

看護師になりたいという大きな夢を抱いて、この学校に入学したあの日からの三年間は、あっという間のことだったように感じられます。ですが、今改めて振り返ると、その一日一日は、これから看護師としての人生を歩む上で、とても意義あるものでした。

入学当初、看護を学べる喜びの一方で、初めて触れる沢山の専門的な知識に戸惑い、今後の学生生活に不安を抱いていました。初めての病棟実習は、不安と緊張の中、先輩看護師の働く姿を目にして、この職業への憧れがより一層強くなりました。

そして、ろうそくの灯りの下、厳かに行われた戴帽式。凜とした空気の中、皆と一緒にナイチンゲール誓詞を斉唱したときの感動は、今でも鮮明に思い出されます。看護師という職業の責任の重みを実感するとともに、看護の道へ進んだ初心を思い出し、決意を新たに致しました。

臨地実習を重ねる中では、看護者としてだけでなく、一人の人間として大きな影響を受け、自分自身と向き合いました。自分の力ではどうにもできない、厳しい現実直面する場面もありました。自身の未熟さ、無力さに、悔し涙を流したこともありました。でも、辛いときでも患者さんの「ありがとう」という言葉、日に日に回復されていく様子、そして笑顔で退院されていく姿に元気を頂き、看護師の道を志して良かった、看護をもっと学んでいきたいと思えました。

入学の年には熊本地震が、また昨年には大阪北部地震や北海道胆振東部地震、西日本豪雨など数多くの災害が起きました。被災された方々を思うと胸が締めつけられる一方、救援活動において先輩方が活躍される姿を目にし、私達も将来このような活動に携わることのできる人材に成長したいと強く感じました。

三年間、共に歩んできたクラスメイトの皆。実習も勉強もスポーツも、いざというときには全力で取り組むことのできるそんなクラスだったと思います。何事も前向きに楽しもうとする姿勢、元気いっぱいの明るい笑顔、そして友達を思いやることのできる優しい心を持った皆が私は大好きでした。また、自分の思いをしっかりと持ち、真っ直ぐな心で看護にあたる姿には、本当に沢山のことを教えてもらったように思います。これからそれぞれ進む道は異なりますが、どんな道であっても私達らしく乗り越えていけると信じています。

本日、ご臨席いただいた皆様は元より、患者さん、病院職員の方をはじめ、この三年間で出会い、お世話になった全ての方々に、卒業生一同、心より御礼申し上げます。まだまだ未熟な私達でございますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。(要約)

平成 31 年 3 月 7 日